# 明日への扉 No.6

## ウクレレの美しい音色は 真剣に向き合ってきた証

Junro Nagayoshi

### 永吉 潤郎さん

昭和53年鹿屋市生まれ。鹿屋高校卒業後、平成10年４月に群馬県の高等技術専門校に入学、木工の基礎を学ぶ。卒業後は長野県の楽器職人に師事、平成16年帰郷・独立。工房「ジュンタラ楽音（らくおん）製作所」を構え、ウクレレを製作している。（36歳）

上野町にある実家の車庫を改造して作った工房で、月に３本ほどのペースでウクレレを仕上げる。お客さんの求めるウクレレになるように、手作りで一つ一つ丁寧に作るのがこだわり。

幼い頃から「ものづくり」に興味があり、将来は物を作る仕事をしたいと思っていたので、高校時代に音楽に興味が沸いてギターが欲しくなった時、私の場合は、「ギターを作りたい！」という方向に自然に意識が向かいました。

高校卒業後、しばらくは自動車工場で仕事をしてお金を貯めながら、職人さん巡りをしていましたが、ある職人さんのアドバイスがきっかけで、木工の専門学校に通うことに決めました。

家具づくりの専門学校でしたが、木工の基礎を学ぶことができ、人との貴重な出会いも得られました。卒業後に師事した師匠との出会いも、専門学校時代に学校の卒業生が紹介してくれたのが始まりです。

師匠は、マンドリン製作が専門だったのですが、注文を受ければ来るもの拒まずでギターでもウクレレでも何でも製作していました。そんな中で、次第にウクレレの魅力に惹かれていったのです。「給料は要らないから弟子として置かせてください」と言って飛び込んだので、無給でしたが、食事や住居などの面で大変親切にしていただきました。

一年半の弟子修行の後、アルバイトをしてお金を貯めながら、道具を揃えたり、試作品を作ったりの生活を過ごし、二十五歳で帰郷しました。

地元を選んだのは、ひっそり、かつしっかりのめり込んで作れると思ったからです。工房を構えて以来、物理的にも精神的にもつらい時期がありましたが、二年くらい前からようやく落ち着いて前向きに取り組めるようになった気がします。

現在はお陰様で、東京と大阪の楽器店から定期的に注文をいただいています。ただ悩みは尽きません。完璧など無い世界ですから、新しいことをしたいという欲求と、いざやると売れないかもしれないという不安…、常にそんな葛藤の中でウクレレを作っています。

振り返ってみると、専門学校時代の先生、師匠、楽器店の経営者等、これまで奇跡的な様々な出会い・縁のお陰で、こうして今があるのだとつくづく感じます。

「若いうちにいろんなことをやって、その中から道を見つければいいよ」と昔よく言われましたが、若い時から何でもいいので一つのことをしっかり取り組んだほうがいいと私は思っています。

将来は鹿児島に豊富にある竹でウクレレを作れたらいいですね。そして良い作品を作ることで、お世話になった人たちに少しでも恩返しをしていけたらと思います。